

第 32 回科学委員会議事録の関連部分の概要

- これらのアプローチは治療（手術）結果予測の精度を向上するため、手術法の適用を決める治療方針に資するという意見に対して、佐久間委員から、研究で謳う点と承認にかかる評価は性格が異なるため、手法の限界の明確化を図りたいとの補足があった。
- verification と validation について、どのように区別するのか、モデリングをどのように validation するのか、という質問に対し、佐久間委員から、一つは実験、最終的には臨床研究で検証することが考えられる。しかし、迅速に科学的知見を社会実装するという観点では検証プロセスを科学的に効率化するリスクアセスメントが課題であり、計算を行う立場、実際にその評価をする立場の議論を集約して、シミュレーションの応用の限界に関する議論をすべき、との回答があった。
- 支配方程式がある領域で AI を専門部会のスコープに入れるかは議論が必要との意見に対し、佐久間委員から AI を対象にするのではなく、AI の学習データを作るときにシミュレータを使う考えが出現している。バイアスを持った学習データを作る可能性がある一方、来歴が既知としてデータの質が担保されるので良い面と悪い面を明確化することが重要との回答があった。
- 専門部会の目的に「生体现象を対象とする」との記載があるが、従来の形態医学（形成・口腔外科等の形状モデル）は除外するのか、スコープの限定化をすべきではないかとの意見に対し、佐久間委員から、既存のアプローチは除外する。専門部会の対象として想定するのは、形態にかかわる機能・動き・流れ・圧力、電気生理の観点では梗塞部位の大きさが興奮伝播に影響すること、などである。機能推定のために、画像だけでは把握できない情報を得るためにシミュレーションを活用する、との回答があった。